

## 数量を表す副詞について —「少々」と「多々」を中心に— 蔡嘉昱

日本語において早い時期に日本語に溶け込んで、動態のものを修飾できるようになり、形容動詞から副詞的用法を獲得した。日本語で独自に変化し副詞的用法を獲得した漢語副詞が多いことは、多くの先行研究から指摘されている。一方、「少々」と「多々」のような、古典中国語にすでに副詞的用法が存在した語も見られる。このような語の日本語における変化を論じている先行研究が多くとは言えない。

本発表は、古典中国語にすでに副詞的用法が存在した漢語副詞「少々」と「多々」を調査対象に、数量的・程度的意味の発生と消失の視点から、日中両言語での使用状況の変化過程を考察し、数量的意味を持つ漢語副詞の変化を明らかにすることを目的とする。

調査した結果、日中両言語で、数量を表す「少々」と「多々」が古代から現代まで維持されている。しかし、程度を表す「少々」と「多々」が日中両言語で異なる方向で変化していくことがわかる。